

令和5年6月30日
道路局企画課

令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査結果の概要について

国土交通省では、都道府県、政令指定都市及び高速道路株式会社等の関係機関と連携して、令和3年度秋季に全国道路・街路交通情勢調査を実施しました。

このうち、一般交通量調査の結果がまとまりましたのでお知らせします。

1. 全国道路・街路交通情勢調査の概要

一般交通量調査と自動車起終点調査(OD調査)を実施し、調査結果をもとに、現在の道路と道路交通の実態を把握し、道路の計画、建設、管理等に活用します。

2. 前回調査(平成27年度)からの主な変更点

ITSの普及進展により、新たな交通計測が実用化してきていることを踏まえ、データ収集の高度化、効率化を図りました。

- 交通量調査 : CCTV等のカメラ画像のAI解析導入等による機械観測の推進
- 旅行速度調査 : 車種別(大型・小型)旅行速度の掲載、データ取得件数の掲載

3. 一般交通量調査結果の概要

- 全車の走行台キロは、5.3%減少。一方、物流交通の主体である大型車は高速自動車国道で5.5%増加しており、コロナ禍においても高規格道路ネットワークが物流交通を支えている状況がうかがえます。(P.3)
- 平日の朝夕旅行速度(混雑時旅行速度)は、調査全体としてやや低下。(P.4)
- 平日昼間12時間交通量が全国一の地点は、首都高速 高速湾岸線(新木場出入口～葛西JCT)で約11万台。(P.5)
- 車線数は、全体の約9割、高速自動車国道の約3割が3車線以下。一般国道と都道府県道等の合計で、両側歩道の設置区間は約2割、歩道未設置が5割以上。(P.6)

4. 掲載ホームページ

箇所別基本表等の詳細な結果は、以下のページをご覧ください。

<https://www.mlit.go.jp/road/census/r3/>

<お問い合わせ先> 国土交通省 道路局 企画課 道路経済調査室 大西、山口
TEL:代表:(03)5253-8111 直通:(03)5253-8487 内線:37632、37633

- 一般交通量調査は、みなさまの身近な道路の計画立案等に活用するための調査です。
- 普段利用される道路の交通量の把握など、道路管理者のみならず幅広く、調査結果をご活用頂けます。

■一般交通量調査の種類

交通量や旅行速度等の道路交通状況や、車線数、歩道の有無等の道路施設状況を把握する調査です。

交通量調査	道路上の調査地点を通過する車の台数を数えます。
旅行速度調査	道路を走行する自動車の平均速度を調査します。
道路状況調査	車線数、車道幅員、交差点数、歩道の有無等の道路の状況を調べます。

■調査対象道路

高速自動車国道、都市高速道路、一般国道、都道府県道、指定市の一般市道の一部を調査対象としています。

道路種別	延長(km)			R3/H27
	H22	H27	R3	
高速自動車国道	7,808	8,687	9,109	1.049
都市高速道路	742	787	802	1.019
一般国道	54,874	55,685	56,014	1.006
都道府県道等※	128,446	129,003	128,963	1.000
合計	191,870	194,162	194,888	1.004

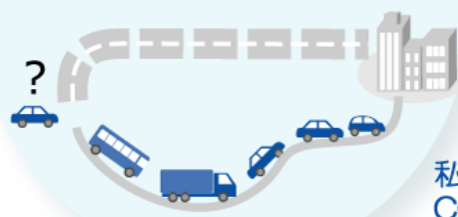
※「都道府県道等」は、主要地方道(指定市道)を含む。

■調査結果の活用例

道路の交通量や車の動きをもとに、現状の課題・実態の把握、施策立案、効果把握に活用されています。

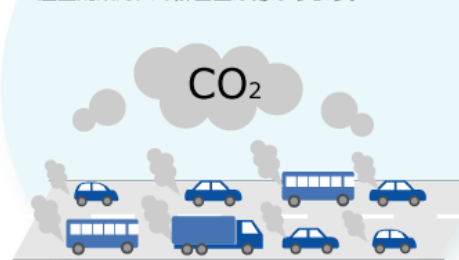
道路の整備効果はどれくらい？

新たな道路や施設を整備した場合の効果把握することができます。



私たちの車利用で、どれくらいのCO₂が発生しているんだろう？

自動車の走行台数×1台あたりのCO₂排出量から、温室効果ガスの排出量が分かります。



- ITSの普及進展により新たな交通計測が実用化してきていることを踏まえ、令和3年度一般交通量調査では、データ収集の高度化、効率化を図るための次のような改善を行いました。

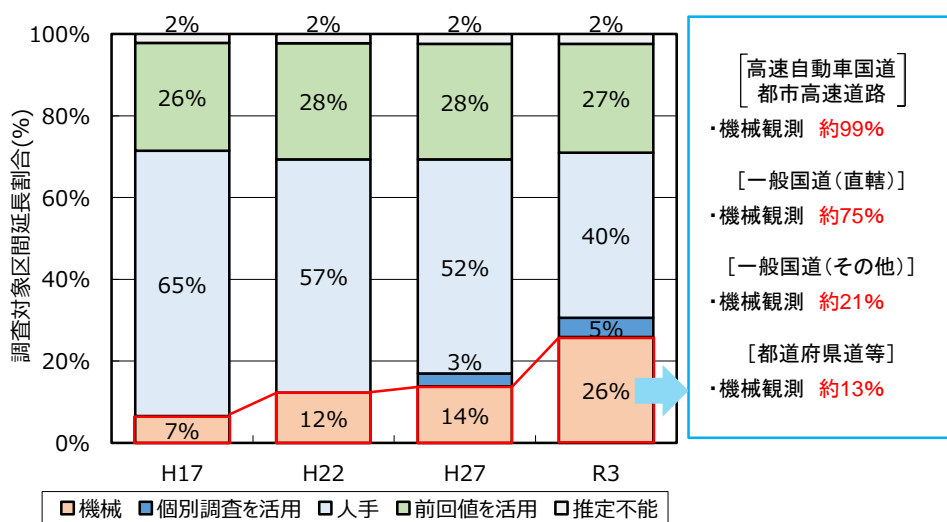
■交通量調査について

●機械観測の推進

機械観測を積極的に導入し、調査の効率化を図りました。
 (機械観測を実施した区間延長割合：約26%)

●CCTVのAI解析の導入

CCTV等のカメラ画像のAI解析による交通量観測を導入しました。
 (直轄国道の約680区間で導入)



交通量 観測方法別区間延長割合

■旅行速度調査について

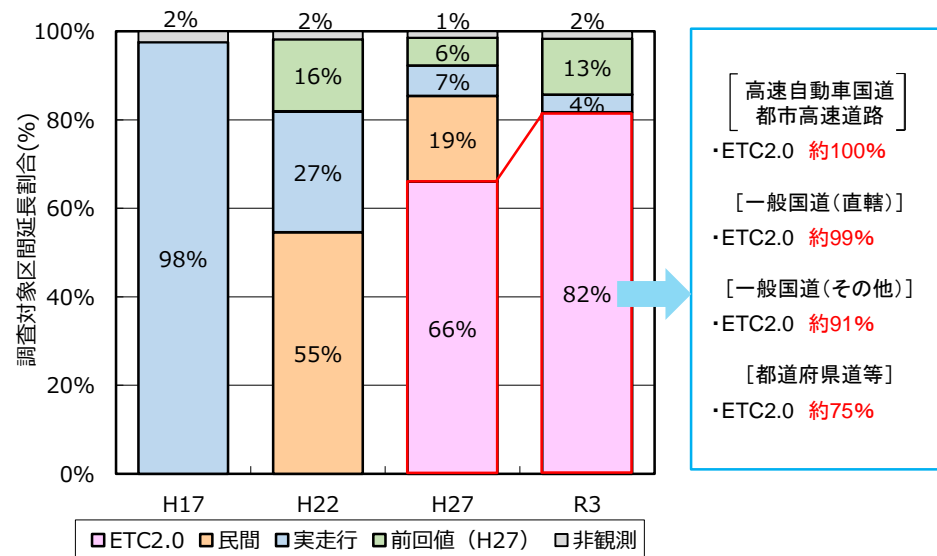
●ETC2.0プローブデータの活用推進

データが取得できる区間が増加したことを踏まえ、ETC2.0プローブデータの活用を基本としました。

ETC2.0プローブデータの活用率
 高速自動車国道・都市高速道路：約100%
 一般国道(直轄)：約99%、一般国道(その他)：約91%
 都道府県道等：約75%

●ETC2.0プローブデータの項目追加

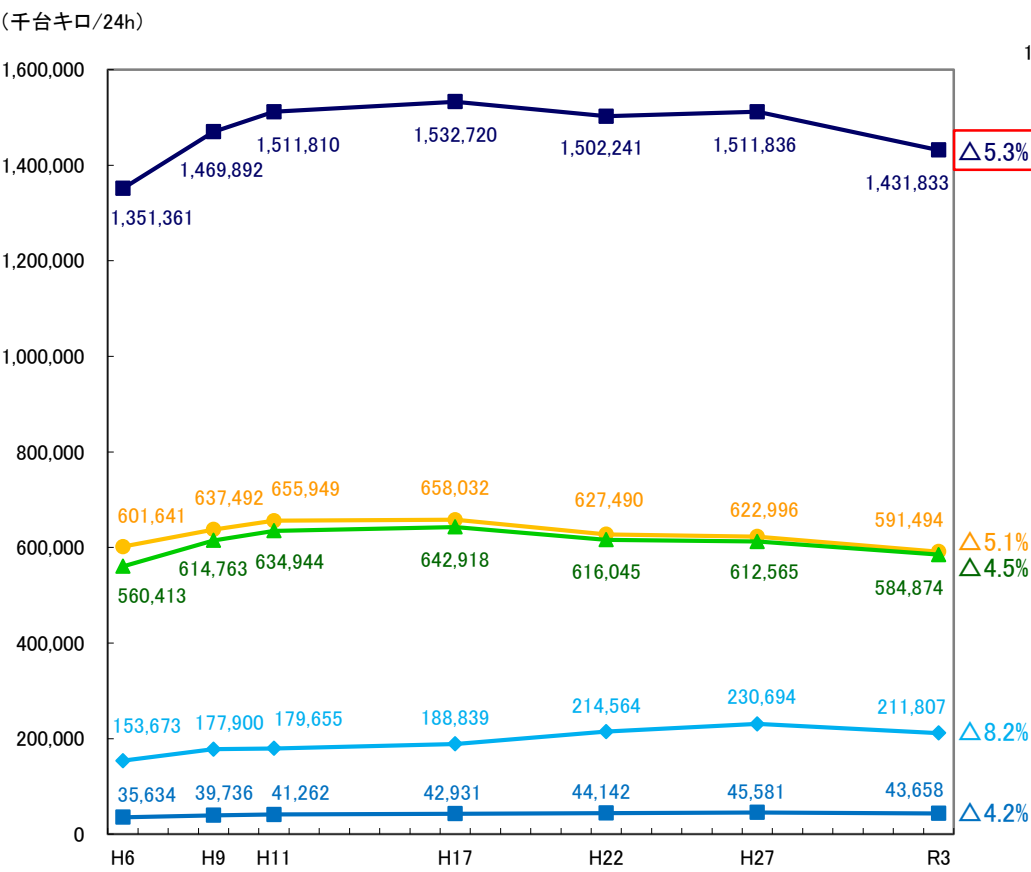
車種別(大型車・小型車)の旅行速度、データの取得件数を掲載しました。



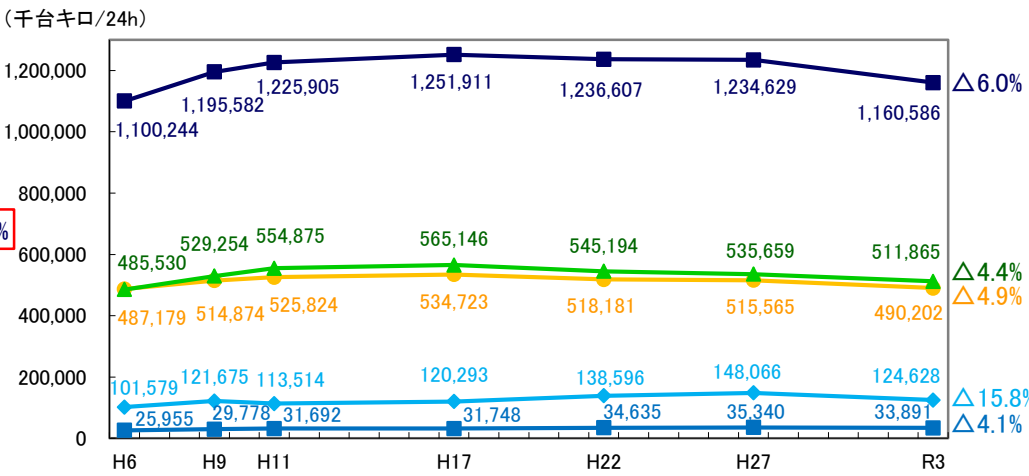
旅行速度 計測方法別区間延長割合

走行台キロの推移

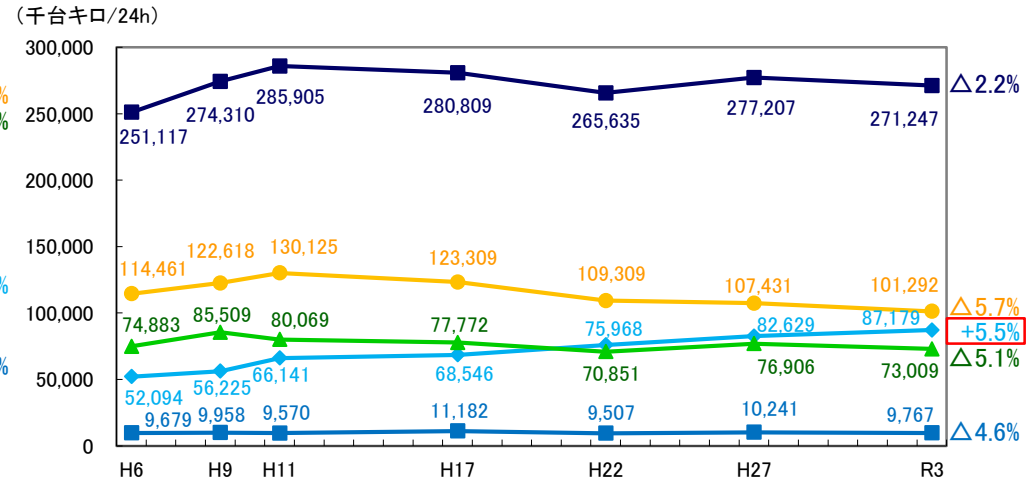
- 全車の走行台キロは、平成27年度と比べて、5.3%減少しています。
- 一方、物流交通の主体である大型車は高速自動車国道で5.5%増加し、コロナ禍においても高規格道路ネットワークが物流交通を支えている状況がうかがえます。



道路種別別走行台キロの推移(全車種)



道路種別別走行台キロの推移(小型車)

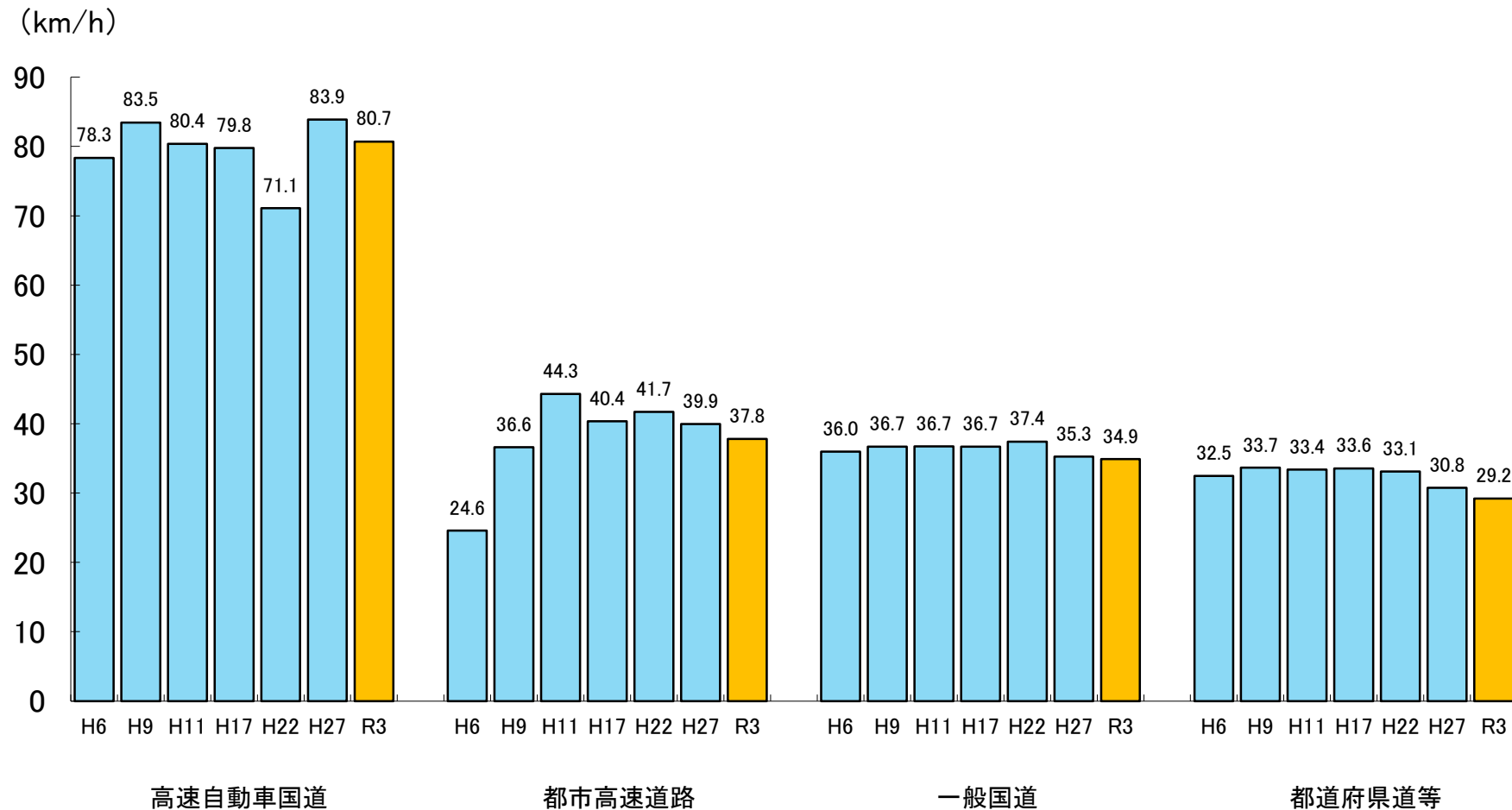


道路種別別走行台キロの推移(大型車)

注) 大型車: 大型貨物車、バス 小型車: 乗用車、小型貨物車

注) 走行台キロは、調査対象(都道府県道等以上)の交通調査基本区間延長にその交通調査基本区間が構成する交通量調査単位区間の交通量を乗じたものを加算して算出。

- 平日の朝夕旅行速度(混雑時旅行速度)は、平成27年度と比べて、全体としてやや低下しています。



朝夕旅行速度(混雑時旅行速度)の推移(平日)

注)朝夕旅行速度(混雑時旅行速度)は、ラッシュ時間帯である朝(7,8時台)又は夕方(17,18時台)の混雑する時間帯の旅行速度。
 ここでは、各交通調査基本区間の上下で遅い方向の旅行速度から算出。

- 平日昼間12時間※交通量が最も多い地点は、首都高速 高速湾岸線(新木場出入口～葛西JCT)の約11万台。高速自動車国道・都市高速道路においては、道路が合流するJCT付近の交通量が多くなっています。
- 交通量が10万台を超える地点は3路線で4地点あり、首都高速 高速湾岸線のほか、首都高速 高速5号池袋線、一般国道16号(保土ヶ谷バイパス)です。

※昼間12時間:午前7時～午後7時

(高速自動車国道)平日昼間12時間交通量の上位10地点

順位	R3交通量 (台/12h)	観測地点名	路線名
1	95,541	横浜町田～綾瀬スマート	東名高速道路
2	90,640	大東鶴見IC～東大阪北IC	近畿自動車道
3	90,024	松原JCT～松原IC	近畿自動車道
4	89,116	海老名JCT～厚木	東名高速道路
5	83,648	長原IC～松原JCT	近畿自動車道
6	81,677	横浜青葉～横浜町田	東名高速道路
7	80,841	東大阪南IC～八尾IC	近畿自動車道
8	78,823	東大阪北IC～東大阪JCT	近畿自動車道
9	77,397	湾岸市川IC～谷津船橋IC	東関東自動車道
10	75,604	門真JCT～大東鶴見IC	近畿自動車道

(都市高速道路)平日昼間12時間交通量の上位10地点

順位	R3交通量 (台/12h)	観測地点名	路線名
1	105,446	新木場出入口～葛西JCT	首都高速 高速湾岸線
2	104,799	辰巳JCT～新木場出入口	首都高速 高速湾岸線
3	103,081	熊野町JCT～板橋JCT	首都高速 高速5号池袋線
4	99,691	東雲JCT・有明出入口～辰巳JCT	首都高速 高速湾岸線
5	94,453	小菅出入口～堀切JCT	首都高速 高速中央環状線
6	93,471	有明JCT～東雲JCT・有明出入口	首都高速 高速湾岸線
7	92,090	東海JCT～大井南出入口	首都高速 高速湾岸線
8	91,761	小菅JCT～小菅出入口	首都高速 高速中央環状線
9	88,971	大阪市西区西本町2丁目	阪神高速 高速大阪東大阪線
10	88,970	浜崎橋JCT～芝浦JCT	首都高速 高速1号羽田線

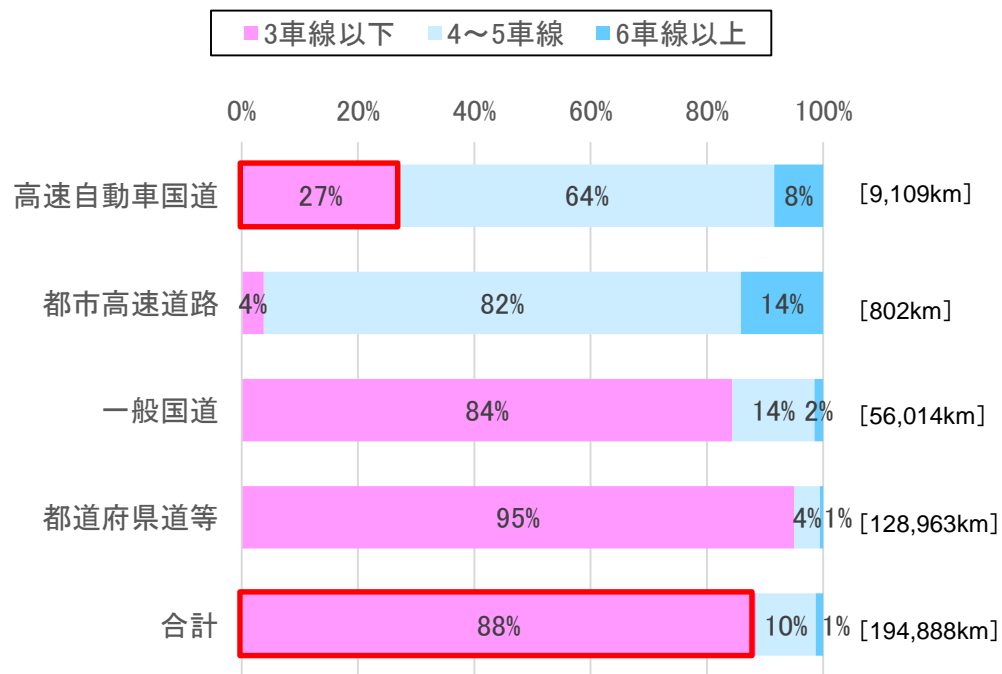
(一般道路)平日昼間12時間交通量の上位10地点

順位	R3交通量 (台/12h)	観測地点名	路線名
1	100,452	横浜市旭区桐ヶ作1492	一般国道16号(保土ヶ谷バイパス)
2	97,586	新潟市中央区紫竹山6丁目	一般国道8号
3	76,465	吹田市南吹田5丁目	一般国道423号
4	73,881	東大阪市本庄西	大阪中央環状線
5	70,945	岡山市中区平井1240番地	一般国道2号(岡山バイパス)
6	68,501	知立市上重原町間瀬口	一般国道23号
7	67,712	新潟市東区寺山3丁目	一般国道7号
8	67,210	福岡市東区下原	一般国道3号
9	64,885	磐田市小立野	一般国道1号(浜松BP)
10	64,344	市川市原木2526-27地先	一般国道357号

注)一般国道の有料区間を除く。また、1路線につき1区間のみ対象とした。

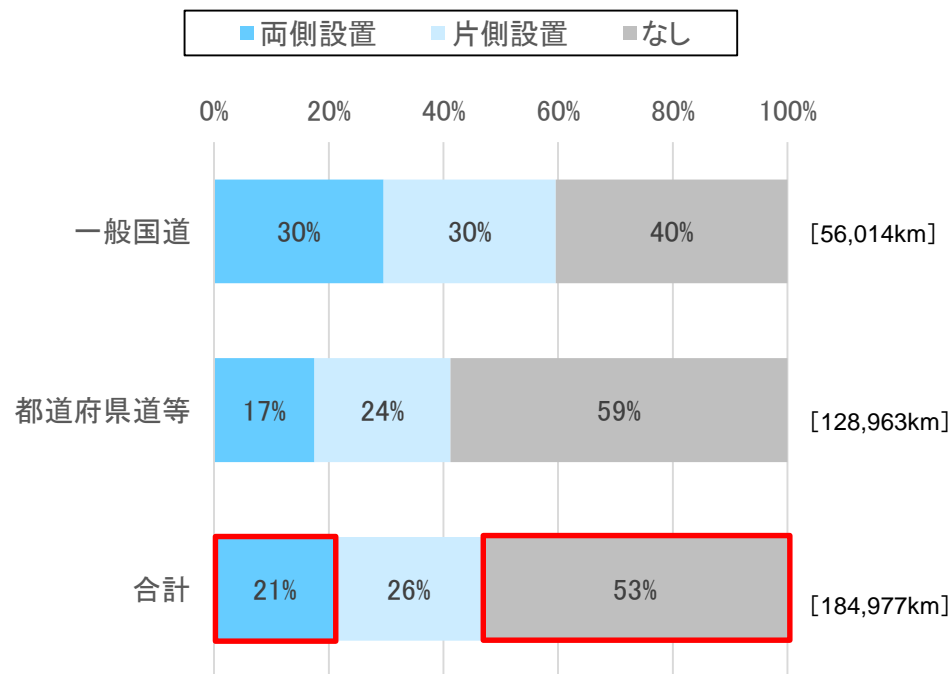
■車線数別延長の構成比

- 車線数は、全体の約9割、高速自動車国道の約3割が、3車線以下です。



■歩道設置状況

- 一般国道と都道府県道等の合計で、両側に歩道が設置されているのは約2割、5割以上が歩道未設置です。



注) 四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。